

エドワード・ジェンナーの像 (その1)

大阪大学微生物病研究所
加藤 四郎

ジェンナーが幼児を抱えて種痘している大理石像の写真は、わが国のいくつかの出版物に載せられてきたものであり、多くの人々にとってなじみの深いものとなっている。

この石板摺の像(図1)は、明治26年1月7日発行の東京医事新誌第771号の付録として出版されたものである(新潟県立がんセンター蒲原宏先生所蔵)。説明文には上欄に「ジェンナー氏其子息ニ牛痘試種ノ図」、下欄に“Edward Jenner testing Vaccination upon his son. From the original statue by Giulio Monteverde.”とある。

私の知るかぎり、この石板摺の像はわが国で紹介された最初のジェンナー像と考える。英国では1896年(明治29年)をジェンナーの種痘法発明100年記念としているので、おそらくそれに備えたものであろう。

本誌において述べたように、ジェンナーの牛痘種痘法の最初の被験者はジェームズ・フィップス少年であるのに、ひとりわが国の人々の間に「ジェンナーは最初にわが子に牛痘種痘を行った」ことが通念となっている。おそらくこの感動的なジェンナー像とその説明文もその物語の背景をなしていたように思える。

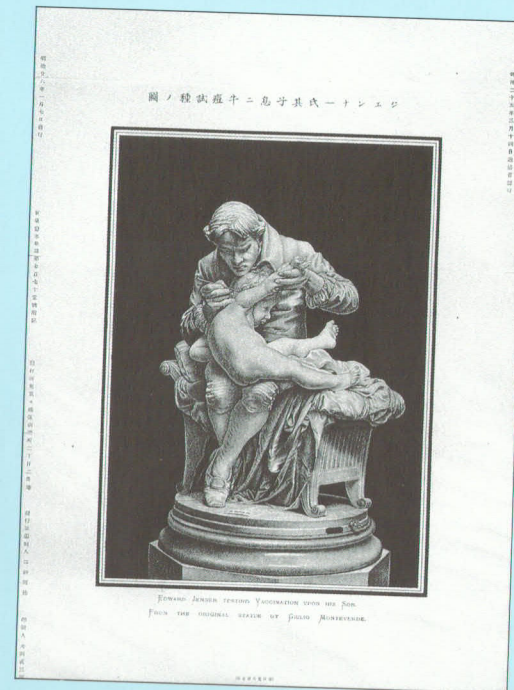


図1.





図4. The Serpentineの噴水庭園とジェンナー像

ロンドンのケンシントン公園にある ジェンナーの青銅の倚像

ハイドパーク (Hyde Park) とケンシントン公園 (Kensington Gardens) は、ロンドン市のほぼ中央に隣接して位置しているが、この2つの公園の境をなすように、サーペンティン (The Serpentine) と呼ばれる池がある。その池の北端に接して噴水を配した庭園があり、ジェンナー像はこの噴水庭園の東側に、西に面して位置している (図4)。

この像は、等身大よりは、かなり大きい堂々たる倚像であり、栄光に包まれたジェンナーの最盛期の面影を偲ばせるものである (見開きページ図2, 3)。国際的な募金運動により1858年に W. Calder Marshall により製作された。

この像は最初トラファルガー広場 (Trafalgar Square) の南西のコーナーに置かれたが、1862年に現在地に移された。場所がら、すぐ近くにあるピーターパンの青銅像とともに、ロンドン市民はもとより外国よりの訪問者にとっても最もなじみの深いジェンナー像となっている。

見開きページ左図2, 右図3: ケンシントン公園のジェンナー像

(図2, 3, 4は1971年筆者撮影)